

明治五年

(二月)

明治五年壬申之春 正月元日 晴。

先々御とこうりなく御祝も済せられ候。朝七ツ時、御祝済せられ候。明六ツ時下り、殿様御参朝也。

*とこうりなく(滞りなく)

(二月) 二日

同相済候。書初も相済候。

(二月) 三日 大風、極寒。

殿様、父さま、山本さま、招魂社え競馬二成らせられ候。日暮、御帰殿也。私、昼後、三条様え上り候。

(二月) 四日 晴。

終日画。

(二月) 五日 終日雪。

此日、父様、千浪え行レ候。私、揮毫。

(二月) 六日

終日揮毫。

(二月) 七日 晴。

御祝相済候。此日、石山様え上り候。御年酒也。夜一宿。

(二月) 八日 晴。

此日、終日遊ぶ。又一宿。

(二月) 九日 晴。

此日昼時、帰殿。高氏、花亭来。

(二月) 十日 晴。

朝、晴翠、晴嵐、外ニ今老人来。此日、腹痛止。七ツ時ヨリ三条様え上り、一宿。

(二月) 十一日 晴。

朝、御所様え御目ニかゝり、暫咄して帰殿。此日、殿様御用召ニテ任内豎せられ候。風早様、対州、外務省役人来。此日、沢様御年酒御客ニテ御手伝ニ上り、夜三更ニ帰殿也。沖冠嶺来。

(二月) 十二日 晴。

朝七字、御参也。此夜、御宿遊し候。此日、京師姉御殿え報知ス。大坂井上、辻氏えも報知ス。

(二月) 十三日 晴。

朝、御帰殿也。此日、散髪遊し候。此日、京師より年始状来。又京師え報知ス。

(二月) 十四日 晴。

朝七字、御参也。私、大沼枕山え年礼ニ行。松浦黒川来。十七日松浦屋敷賓客ニテ私頼来候。

(此日も京御殿報知ス。)

(二月) 十五日 晴。

殿様、此日、御番代也。父様、千浪え行れ候。此日、松村小蘋子、松浦え連て行候筈ニテ山本さま行レ候処、断也。

(二月) 十六日 晴。

殿様、御退出也。

(二月) 十七日 晴、曇、夕小雨、又止。

殿様、御参也。朝九字、松浦邸え行候。昼後來客、松平肥後、鍋島公、[酒井盧堂](#)、[一式](#)、千石。松浦御末家主人御取持也。荒木寛一、書画[大はつみ](#)也。夜十一字、転客、十二字、帰殿候。愛治郎、梅作、迎ニ来候。

*酒井盧堂(酒井魯堂) *一式(一色) *大はつみ(大弾み)

(二月) 十八日

十二字後、御退出也。

(二月) 十九日

朝七字、御参也。父さま、千浪え歌会ニ行レ候。此日、沢様より呼ニ来、即参候処、西京越野死去之よし報知来、皆々大愁傷。夫ニ付、種々書物いたし、夕、父様帰殿ニテ、又沢家へ行レ、書物也、夜十二字迄。私、沢様え居り候而帰殿いたし、暫時して不計シヤツキ差起り大ナヤミ、已ニあやうき処也。医師呼ニ来、又広一呼ニ行候処、あやにく留主中、小川来候へとも、中々薬不用、いたみ通し。

*シヤツキ(癩気) *ナヤミ(悩み)

(二月) 二十日

終日いたみ通し、夜十字頃ニ成テ少々眠出、針事中也。殿様御退出也。小川、木村、広一來。

(二月) 二十一日

殿様御参也。此日、京御殿より報知有。木津唯専寺よりも書状来。此夜、近藤子来。従三位様より御頼みニテ、此度、姉小路様御引越の節、鶴女同道之よし申来候て、皆々大めい惑、大歎息之至也。

此日、辻次郎右衛門来。

*大めい惑(大迷惑)

(二月) 二十二日 晴。

殿様、十二字後御退出也。此(日)、殿様海保え御入門遊し候。此日、京御殿え報知ス。私、いまた臥籠也。漸いたみは治り候也。

(二月) 二十三日 晴。

殿様、朝七字御参也。山本氏、火急西京え出立いたし候。此日、門跡様西京え御出立也。父様も品川迄御見立ニ行れ候。

(二月) 二十四日 晴。

殿様、十二字下り御退出也。此朝、木村子来。私宅周旋いたしけれられ候故、父さま同道ニテ見ニ行レ候。福田巴女より文来。

(二月) 二十五日 大雪。

殿様、朝七字御参也。正月廿一日出書状、廿五日着。

(二月) 二十六日 晴。

殿様、十二字御退室也。此日、海保え御出学也。沢従四位様成らせられ候。

*退室(退出)

(二月) 二十七日 晴。

朝七字、御参也。御宿。此朝、沢從四位さま、澄姫さま、いく田、安雄四人連ニテ西京出立致され候。最、蒸気也。此朝、私始て沢さま迄行候。

*最(尤)

(二月) 二十八日 晴、風、夜雨。

殿様、此日、御番代也。私、漸床払いたし候。昼後、父様卜同道ニテ茅場町宅見ニ行、夫ヨリ田中清太郎方へ行、又新道宅見ニ行、又富田え寄、島屋え寄、夕景、帰殿。此日、京御殿え報知ス。此日、軽州 (空白) 画願ニ来。

(二月) 二十九日 晴。

殿様、朝十一字下り御退出也。昼後、海保え出学也。私、終日揮毫。父さま、昼後、千浪え行れ候。此日、明覚寺使、法主様短冊持参候。

(二月)

二月朔日 卯 晴。

殿様、朝七字御参也。朝、木村良輔来。昼後、三条様え上り、七ツ時、帰殿。此日、廿六日出書状、西京より着。父様、池田え歌会ニ行れ候。夕景、帰殿也。

(二月) 二日 辰 晴。

公、十字御帰殿、即海保え出学、六字御帰殿。私、終日揮毫。此日、三日限報知ス、西京御殿え。

(二月) 三日 巳 雨。

公、朝七字参朝、御宿番。私、終日揮毫。

(二月) 四日 午 朝雨、亦晴。

公、十字退出。昼後、公、撰斎、花蹊、石山様初午祭ニテ御招成らせられ候。大賑々敷、夕景より御酒宴終夜、及明テ済。父様、七ツ時帰殿。公、私、一宿。

(二月) 五日 未 晴。

朝六字、公、石山様より騎馬ニテ朝参。私、昼後、帰殿候。

(二月) 六日 申 風雨。

公、十一字退出。昼後、尼ヶ崎桜井より招れ候て、成らせられ候。撰斎、高橋、梅作御供也。夜八字、御帰殿也。愛治郎風邪ニテ帰殿。

(二月) 七日 酉 雨。

公、朝七字、参朝。私、終日揮毫。

(二月) 八日 戌 晴。

朝十字ヨリ、父様、私ト与ニ招え行。池田勝暉方え行。暫して笹ノ雪昼仕度、服部波山え行、暫語して、本郷丹後方え行候処、御夫婦とも大ゐに大悦、酒肴出、席上揮毫。波山も来、外二医師一人来、七ツ時迄遊ぶ。人力車ニテ一更ニ帰殿候。公、朝十一字、御所より海保出学。四字、御帰殿也。

(二月) 九日 亥 彼岸入 晴。

朝、公、七字参朝。私、終日揮毫。此日、愛治郎海保え帰り候。父様、戸帳方え行レ、当家貫属承知仰渡され候。昼後より父様、高橋と与に麴町え御屋敷見ニ行れ候。六字、帰殿也。此日、三日限ニテ京師え文出ス。

*戸帳(戸長)

(二月) 十日 子 大雨。

十字、御迎ひ、即海保え御出学也。私、終日揮毫。父様、昼後千浪え行レ、五字(帰)殿也。此朝、六日出書状京姉御殿より着。此時、沢さま近藤行書状来。四字、公、愛治郎、御帰殿也。

(二月) 十一日 丑 雨。

公、七字参朝也。富田、笹本、松浦来。私、終日ヌメ山水揮毫ス。又京姉御殿より七日出書状着。

*ヌメ(統)

(二月) 十二日 寅 曇天。

朝、御所より御使来、石山様此日亀井え梅見ニ成らせられ候ニ付、内藤様御誘ニて、撰斎、私も同道ニてのよしニて、早々こしらへいたし、十二字ヨリ石山様え上り、公、御所より石山様え行レ、一字頃より石山様、きく姫さま、やな、父さま、御すかさま、弘、守、わか、九人連也、舟ニて亀井え上り、天神拝し、臥竜梅を見る。花満開也。夫ヨリ新梅え行、暫休息。写得真景。帰、柳島より泛舟、四字頃也。川升湧金亭ニテ酒肴。妓婦四人、花助、やす、おもちや、小夏也。月曇臙ニて、殊更川の景色もおもしろく、乗興、揮毫書画。夜十二字、

退坐、又泛舟、筋違小松屋え着。高橋、梅作迎ニ来。父さま人力車ニテ築地え帰殿也。公、私、石山家え行、宿、夜二字也。此日、京姉御殿より正月十四日出箇包着。
*亀井(亀戸) *こしらへ(拵へ) *亀井(亀戸) *箇包(小包)

(二月) 十三日 卯 晴。

公、朝七字、参朝也。昼後、石山公、菊姫さま、すか女、私、守、たか女、六人同道ニテ、センジヨリ少シ先銀世界え行。梅花盛開、催酒、四字頃迄賞花。夫ヨ(リ)人力車ニテ帰ル。行路人力如矢、実到大愉快、日暮帰殿。此行ガケ、路すから、もゝあるいは梅花、柳もほころひ、行路処々行愈好、村々春風香馥郁。此夜も石山家ニて一宿。
*センジ(千住)

(二月) 十四日 辰 晴。

朝、迎ひ梅作来。人力車ニテ帰殿候。八ツ時、門跡え参詣。父様、番町え御屋敷見ニ行れ候。愛治郎、帰宿。
公、番代。

(二月) 十五日 巳 雨。

公、十一字退出。昼後、海保先生支那人面会ニ行レ、中え寄、中村氏ト同道也。暫して帰られ候。父さま、千浪行留主中也。愛治郎、帰宿。

(二月) 十六日 午 晴、雨、晴。

公、五字参朝。愛治郎、海保え行。花蹊、終日揮毫。此日、笹本幾波書画小集不参。此日、京姉家え報知ス、三日限。

(二月) 十七日 未 曇天。

終日揮毫。額面四季花卉也。公、番代ニテ留朝。父様、猛、御屋敷見ニ行れ候。十三日出書状京姉家より着。吉田泰蔵子よりも書状来着。

(二月) 十八日 申

公、十一字退出、即海保え出学也。四字過、御帰殿也。私、終日額面揮毫ス。此日、御所乱人動揺ス。此朝、高木喜市来。

(二月) 十九日 酉 大風。

公、六字参朝。私、額面認ル。

(二月) 廿日 戌 大風。

公、番代留朝。此朝、辻治郎右衛門、升五二人来。廿一日出立の暇乞に来り候。文托ス。花亭の張出し山水揮毫ス。父さま、千浪え行れ候。愛治郎所勞にて帰殿。此日、石山様より芝居御誘下され候故、夕景より石山様え行、一宿。

(二月) 廿一日 亥 雨。

六字出門ニテ芝居行、終日たのしむ。御帰、雨ニテ人力車ニテ帰殿也。早々御酒にて四字迄也。又一宿。此日、京十七日出書状着。此日朝十字迄、遠藤屋敷買得二付、待くれ候様約束いたし、朝十字買得のつもりにて行候処、外方え売付候様申、約束大相違いたし候事也。此日、公退出御指御ケカニテ御臥籠ニ相成候。

*ケカ (怪我)

(二月) 廿二日 子 晴。

二字、私帰殿也。公、此日も御休也。京姉御殿より十八日出文着。

(二月) 廿三日 丑 晴。

朝、父さま趨町屋敷見ニ行れ候。即買得致され候。公、休日。私、絹地かみ雛認、額面砂子ス。

(二月) 廿四日 寅 雨。

朝六字、公参殿也。此朝、右屋敷主より使来、弥五百両にて買払のよし申来り候。私、砂子落製、画帖二冊揮毫。須田弘来。

*買払 (売払)

(二月) 廿五日 卯 晴、風。

書画帖二冊揮毫。高木喜市来。此日、三日限にて京姉御殿え報知ス。公、御番代ニテ留朝。私、昼後高木小集ニテ出會。七ツ過迄揮毫、点座ス。父様、千浪え出會。夕景、帰殿也。

(二月) 廿六日 晴、大烈風。

公、十字退出。十一字、公、撰斎、花蹊、愛治郎四人連ニテ、両国中村楼蔦峰書画会ニ成らせられ候。盛会也。石山様も成らせられ候。二字退坐ニテ、半途ニテ丸ノ内出火。大急キ人力車ニテ帰殿。早々、公御参朝、御供高橋也。父様、愛治郎火事見ニ行。公ノ安否見届ケ、万里小路さま已ニあやうき処ニテ、父さま、万里小路さまえ御見舞ニ行レ、御内、私、捨藏のみ也。此時、島屋てる女来、早々御内かた付候様申、夫ヨリかた付ニかゝり、大半かた付候処、皆々帰殿。大てい皆々相かた付候処、もはや火来、七ツ時過、尽焼失ス。大てい御大事は広場え持出ス。其処又火来、夫ヨリ四度持出ス。鉄砲津辺迄也。火勢益甚たく、夜四ツ時、漸下火ニ相成、夜八ツ時迄広野ニ居り候。其内焼跡邸中見ニ行候。

漸火治り、夫ヨリ焼跡え帰ル。私、夫ヨリ石山様え上り候。外之人々は焼跡ニテ徹夜ス。

(二月) 廿七日 晴。

公、留朝。翌朝、私築地焼跡え行候。焼残道具相調、車ニテ□□(汚損)道具一切石山様え持はこふ。此日、京姉御殿より三日限書状来。此日、石山様え一同引越候。沢さまも御同道也。此日、京御殿え焼失之書状差出し候。三日限也。

(二月) 廿八日 晴。

公、留朝。

(二月) 廿九日 晴也。

此日、御殿え三日限書状出ス。公、留朝、御退出也。

(二月) 三十日 晴。

公、参朝七字也。此日、私三条様え上り、暫時遊ぶ。

(三月)

三月朔日 晴。

公、留朝。

(三月) 二日 晴。

公、留朝。昼時より、石山様、きく姫さま、おすかさま、私、守、やな、父さま、や重のさま、八人連ニテ上野え行、花盛開。夫ヨリ東橋ヨリ泛舟、向島花満開、所々行応好水神、八百善え行、酒肴、繫舟。暮六ツ時ヨリ又泛舟、二更後、帰殿也。

*東橋(吾妻橋)

(三月) 三日 晴。

公、十字退出。此日、御祝酒ニテ妓婦来。石山様、三字参朝。

(三月) 四日

公、参朝、第七字也。十一字頃より石山様、菊姫さま、すか、花蹊等五人連ニテ人力車ニテ根津権現の花見ル。夫ヨリ日暮し、飛鳥山、王子稻荷、花満開。扇屋ニテ酒肴。暮六ツ過迄遊ぶ。夫ヨリ人力車ニテ帰殿、一更也。

(三月) 五日 晴。
公、留朝。

(三月) 六日 晴。
公、留朝。此日、沢家御一統築地え御引越也。此日、京姉御殿より二日出書状来。当御殿よりも三日限書状発ス。

(三月) 七日
公、十字退出。少々御所勞ニテ御引籠也。

(三月) 八日 雨。
公、御引籠也。医師葛野診察ス。
*葛野(高カ野)

(三月) 九日 雨。
公、御所勞ニテ不參。

(三月) 十日 晴、曇天。
公、第七字参朝之処、御所勞ニテ今日養生之よし仰被出候故ニ退出。十一字頃より公、撰斎、花蹊、愛治郎、中橋迄。使用テ、公、愛治郎帰殿。撰斎、花蹊、築地沢さまえ行、暫して退ク。日暮、石山様帰殿候。此日、三月四日出書状、姉御殿より到来。

(三月) 十一日 晴。
公、六字参朝。父様、下谷根岸边之火事見舞礼廻り致され候。日暮、帰殿。花蹊、終日揮毫。

(三月) 十二日 晴。
公、留朝。京師姉家ヨリ当月八日出書状着。井上、辻氏ヨリ火事見舞来。花蹊、終日揮毫。長松使来。京姉御殿え報知ス。

(三月) 十三日
(コノ日、記事ナシ)
(三月) 十四日
(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十五日

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十六日

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十七日 雨。

父様、浅草え参詣致され候。

(三月) 十八日 雨。

公、参朝。京御殿より十四日出書状着。鶴印三月十四日京地発足之由申し来り候。此朝、大坂井上使来。昼後、父様、私、梅作連て、井上金三郎旅宿海運橋河内屋半治郎方え行。金三郎さまに面会いたし、色々談事、七ツ時帰殿、日暮過也。

(三月) 十九日 雨。

公、退出、御所勞。

(三月) 二十日 雨。

公、御所勞ニテ御不参也。

(三月) 二十一日 雨。

公、御不参也。

(三月) 二十二日 晴、七ツ時より雨。

公、七字参朝。

(三月) 二十三日 晴。

公、留朝。花蹊、揮毫。

(三月) 二十四日 晴。

公、留朝。

(三月) 二十五日 晴。

公、留朝。父様、千浪え行れ候。

(三月) 二十六日 晴。

公、退出。井上金三郎来、良久咄して帰られ候。島村来。

(三月) 二十七日 雨。

公、七字参朝也。此日、釜掛。石山様外皆々御客也。此夜二字、川崎より報知。千よ滝、山本氏ヨリ書面来、明廿八日東着のよし申来り候。

(三月) 二十八日 (四月八日マデ一項目ノ記事)

朝七ツ起ニテ父様大森迄迎ひニ行レ候。早朝、公退出。即高橋連て大森迄御迎ひニ成らせられ候。此日、浪花井上氏出立ニテ梅作事伝物持参いたし、夫ヨリ大森迄御迎ひニ行候。四字頃、沢定姫さま、政丸さま、千よ滝、山本、鶴、外女中二人無事石山様え着也。色々三年ぶりの咄し尽ぬ。道中雨つゝき晴は一日もなく大困りゝのよし也。夫ヨリ長松の屋敷日々御引移り計せき御前なそつくろひいたし候処、長松家内も産後日々重く相成、外ニ病人も出来、夫ゆへ外え引移り候事も出来す故、実に行ニテ頼来り候故、速ニ承知いたし、夫ヨリ小川町猿楽町安永の邸見ニ行候処、陽氣の家相ニテ皆々氣二入、

四月六日

弥買得の約定決し、

(四月) 七日

安長分え引越、

(四月) 八日

御するゝ御綿ましあらせられ候。此夜、実に御にきゝしき事也。須田弘、守治郎来、十字頃迄酒筵也。七日夜ヨリ山本氏不快也。夫ヨリ多忙ニテ不記。

*事(言) *せき(急ぎ) *なそ(等) *つくろひ(繕ひ) *綿まし(移徙) *
にきゝし(賑々し)

(四月九日〜三十日、日記ナシ)

(五月)

五月朔日 晴。

公、参朝、十二字退出。昼後、公他行。千世滝さま、万里小路さまえ参殿也。此日、御祝酒也。愛治郎帰殿、一宿。

(五月) 二日 晴。

公、参朝。此日、樋口蒼竜、扇明亭、万助、高島式部来。花蹊、石山様え御稽古ニ上り候。即退ク。

(五月) 三日 晴。

公、十字御退出。朝、井上家内来。東花堂、大隅、西か原岩女来。此日、姉御殿え報知ス。

(五月四日〜十三日、日記ナシ)

(五月) 十四日

兼テ御内意あらせられ候公御洋行之義、愈当十六日御出立の御内意今日あらせられ、大ニあわて御用意御こしらへいたし候処、(翌日へ続ク)

*義(儀) *こしらへ(拵へ)

(五月) 十五日

今少々御洋行之事、評定之上、委卜御治定之由ニ相成候。

(五月) 十六日

御洋行御延引仰せ出させられ候。近藤真鋤、此日洋行出立致され候。

一、此度公御洋行御出立前ニ西京御殿御引越ニテ御婚姻調せられ候御筈、当五日三条様貞誠院さま御死去申来、右御婚姻は御延引の御様子相成候事也。

(五月) 十七日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 十八日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 十九日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 二十日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 二十一日 雨。

花蹊、沢家え行、画之事ニ付テ也。即帰殿候。

(五月) 二十二日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 二十三日 晴。

御上、西国御巡しう御発輦也。公、参朝、一宿。

*御巡しう(御巡狩)

(五月) 二十四日 晴。

此日、対州青木繁治郎、同藤右衛門、朝鮮ヨリ帰京、参殿いたし候。久々ニテ対面。青木、昼後帰邸、藤右衛門残られ候。此時、勘解由小路さま成らせられ候。一字、公海部え成らせられ候。御帰殿二字、夫ヨリ公、愛治郎、藤右衛門、馬ニテ堀切え行かれ候。四字頃、御帰殿也。牛込山片来。

(五月) 二十五日 雨、終日。

朝、高橋猛、此日眼病ニテ養生致度故、帰国相願、出立スル。対州村鉾八郎来。父様、出口え行レ候。山本子、夕、出口え行レ候。

(五月) 二十六日 雨。

終日揮毫。村鉾八郎より使来。夕景、須田弘来。此時、公、石山様え成らせられ候。九字、帰殿。

(五月) 二十七日 晴。

朝、南甫来。安長使来。青木藤右衛門来。京姉家より長棹七本来着。十二字、公、参朝、一字退出。

(五月) 二十八日 晴。

終日揮毫。

(五月) 二十九日 晴。

終日揮毫。沢鶴女来り候。

(五月) 三十日 晴。

沢従三位来られ候。

(六月)

六月朔日 雨、雷鳴。

早朝ヨリ花蹊、沢家行、御襖七枚、柳梅鶯之図淡彩揮毫出来。山小路殿面会、席画ス。日

暮後、帰殿也。此日、沢家にて土子氏ニ面会ス。此日、石山様ヨリ御誘ニテ、千世滝さま九段松葉楼躍会ニ行レ候。昼後、公、撰斎、愛治郎も行レ候。

(六月) 二日 晴。

終日揮毫。

(六月) 三日 晴。

京師御殿、愈御引払ニ相成、当二日御め出度御発輿のよし申来り候。此日、沢藤姫さま来られ候。

(六月) 四日 晴。

終日揮毫。青木藤右衛門来。

(六月) 五日 晴。

終日揮毫。此日、大宮様、后宮様、浜離宮より向島え行啓。公、両国橋迄行レ還行御供也。

*還行(還幸)

(六月) 六日 晴。

朝、住吉桑太夫来。終日揮毫。

(六月) 七日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 八日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 九日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 十日 晴、大極暑。

殿原宗外務大丞殿ヨリ御誘ニテ、公ヨリ始、御内不残御供、水道橋迄御迎舟来、七ツ時、即泛舟、墨江川え成らせられ候。程なく大丞殿来られ候。青山繁治郎始、脩治郎、外五人斗御家来、妓婦来。酒宴中、書画揮毫ス。十二字、転座、又泛舟。月光、涼風ニ乗テ、二字御帰殿也。

(六月) 十一日

(コノ日、記事ナシ)

(六月十二日～十五日、日記ナシ)

(六月) 十六日

西京ヨリ御上御一統御引越し御着のはつにて、十五日早朝ヨリ撰齋、千世滝、梅作連テ品川釜屋迄行れ候処、此日御着なき様子申来。右撰齋、千世滝釜屋にて一宿。十六日貴殿也。

*はつ(筈)

(六月) 十七日

早天ヨリ、公、撰齋、千世滝、前日十七日ヨリ御迎ひに参り候。此日、皇后様熱海御入湯にて行啓、公御見立にて川崎辺迄御馬車同乗被遊、夫ヨリ撰齋卜御供にて戸塚迄成らせられ候。漸、寿部院様、よし姫さまも御逢遊し、夫ヨリ夜二字下り御帰殿也。

*十七日(十六日)

(六月) 十八日

御内不残御迎ひに参り、御殿ハ花蹊、花山、捨藏卜斗也。四字頃、御着。寿邦院様御初、よし姫様、其外御次一統皆々御機嫌よく恐悦之至也。御供典、治、極、岩太、重太郎、伊之助也。

*寿邦院様(寿部院様)

六月中

無事繁用にて不記。

七月

此中頃ヨリ、沢家鶴印の事に付、金子之事起り、従三位不実の訳にて一統大困り、難尽筆紙事也。此月中、不相濟。

八月(八月中ノ記事、一項目ノ記述)

猶益従三位事ニテ実にくこなた一統かなしき事共也。公、

(八月) 廿八日

免職願書被差出候。

(八月) 廿九日

沢從三位ヨリ撰斎呼よせて、公の免職相願候様被申付候。

(八月) 三十日

又々三条家より免職の二字止テ洋行の願可差出様申来、右様願書被差出候。是朔日也。右の事ニ付ても從三位仕方あしく是可うらむ人也。不可忘也。御洋行は司法卿江藤卜御同行之筈、右江藤は止ニ相成候而岸良卜御同行也。

(九月)

九月朔日 雨。

此日、公留朝。

(九月) 二日 晴。

公、朝七字参朝。

(九月) 三日 晴。

公、十字御帰殿也。花、長州家ヨリの画帖揮毫。

(九月) 四日 雨。

此日、帝、越中島行幸の処、雨天ニテ御延引。公、六字参朝也。花、石山様之行、沢三位、從三位客来のよしニテ早々帰殿。福田氏来。

(九月) 五日 雨。

公、十字退室。漸十一日御出立御治定也。十三日、御出帆也。

*退室(退出)

(九月) 六日 雨。

公、七字参朝也。御宿。

(九月) 七日 雨。

公、十字退出也。巴女止宿。

(九月) 八日 雨。

公、七字参朝也。御宿。巴女止宿。

(九月) 九日 晴。

公、十字退出。公、此日、帝、皇后ヨリ種々時計、器物、金子、其外人形、錦絵之類賜候。実に冥加ニ御余りし御仕合、一同難有り候事也。石山様、渡辺父子、福田新兵衛来。巴女止宿。

(九月) 十日 晴。

公、御暇乞参朝被致候。巴女、此日、沢家え行候テ一宿。

(九月) 十一日 雨。

朝十字、御出立也。公、勇立テ御出門也。実ニ家来ニ至迄一同感心実奉恐縮候事也。御見立之人々、撰斎、典、重遠、山本、青山修二郎、文雄、是六人は横浜迄御見立申上候。外ニ渡辺楽之助、石川尚平、須田弘、福田政二郎、品川迄也。十二字前、横浜御着也。実に御内ハ寂々莫々、かなしきとうれしきとニテ涙落如雨。

(九月) 十二日 晴天。

此日、横浜御滞留也。蒸気車鉄道之開ニテ新橋ヨリ横浜迄天地動揺之賑々敷事也。帝、横浜行幸あらせられ候。

(九月) 十三日 晴。

此曉、御出帆之筈、延引、二字頃御乗込、御見立の人々も蒸気船え右様見物いたし、安心之至也。後名月、実に清光也。

(九月) 十四日 極晴天。

曉、御出帆也。実愉快之極候事也。十日見立之人々帰殿候て御洋行蒸気車之様子申、先々安心いたし候。

*十日(十時)

(九月) 十五日 晴天。

当地氏神神田神事也。御祝之事。私、二字頃より石山家客来ニて上り候。伏原父子、三条西さま、冷泉さま也。夜一字、帰殿。此日、本郷丹後守来ル。

(九月) 十六日 晴。

十二字ヨリ寿部院様、よし姫様 御共撰斎、千代滝、この花也、芝増上寺開帳詣して寺中大ゐに賑々しく、所々見物して神明御参詣、夜八時頃、月清光、月と与に御帰殿也。

*御共(御供)

(九月) 十七日 晴。

朝、この花、石山家へ行、**教受**ス、書。此日、井上良輔来。同人**社弟**の親父も同道也。此度、典卜同道帰京の筈也。

***教受**(**教授**) ***社弟**(**舍弟**)

(九月) 十八日 雨。

朝八字、典、重太郎、井上涼助ト三人連ニテ帰京出立候也。此日四字頃、蓮さまより報知有。風早家松浦来。

(九月) 十九日 晴。

此日、京坂え包物飛脚蒸気え出ス。夕景、渡辺楽之助来。

(九月) 二十日 晴、夜雨。

本郷森下正より家ノ断ニ来。

(九月) 二十一日 晴。

渡辺鉄次郎来。

(九月) 二十二日 晴。

終日揮毫。福田照女来。滝和亭門人須藤如蘭上総人来。此日、誕辰節祝ス。

(九月) 二十三日 雨。

終日揮毫。招魂社競馬延引。

(九月) 二十四日 雨。

終日揮毫。二字頃ヨリ石山様へ行、稽古ス。此時、伏原様御出ニテ一更後迄酒肴、夫ヨリ私帰殿候。

(九月) 二十五日 晴。

招魂社競馬有。十二字頃、浪花中之島上田氏来。亀女よりの文、土産物携来、一面对ス。

(九月) 二十六日 細雨。

終日揮毫。

(九月) 二十七日 晴、夜雨。

此日、沢長丸元服ニテ、寿部院様、良姫様、撰斎、千代滝、花蹊招れ候へとも皆々相断。

撰斎斗行候筈、石山様段々千代滝に行へき様仰られ候。無抛千代滝行、夜早々帰殿。父様も二更頃帰殿也。此日、福田政二郎、青山修治郎来。此日、浪花上田氏使来。

(九月) 二十八日 晴。

はる女、此日帶いたし候。ばゝ来り候。

(九月) 二十九日 晴。

昼時ヨリ父様と私同道ニテ三谷浅草町藤浪勘右衛門宅え上田長治郎子尋ねに参り、いろく馳走ニ逢、夫より吉原え見物ニ行、浅草観音さまえ参詣して、人力車ニテ帰殿。夕景也。此留主中、綾小路様、青山脩治郎、宮原竹の来られ候也。

*三谷 (山谷)

(十月)

十月朔日

朝ヨリ花山連テ三条様え上り、昼後帰殿也。夫ヨリ北白川宮様え行候処、宮原竹の留主中ニテ、夫ヨリ石山様え御稽古ニ上り、四字帰殿ス。

(十月) 二日 雨。

終日揮毫ス。

(十月) 三日 雨。

終日揮毫ス。

(十月) 四日 晴。

石山様杜若内侍さま、御神参ニテ御下り故、朝ヨリ私、石山家え行、久々ニテ杜若内侍さまニ逢、席画ス。よし姫さま、千よ滝も御出也。沢従三位、藤姫も来候て、夜十字御帰殿也。

(十月) 五日 晴。

朝九字頃より石山様、杜若内侍さま、菊姫さま、よし姫さま、花蹊、寿か、弘、梁斎、老松丸ニテ浅草御参詣也。隅田川秋至所紅葉染て殊更絶景也。御帰殿三字也。四字、杜若さま御上りニテ、よし姫さま夕景御帰殿也。夫ヨリ北白川宮さまえ行、山本利二郎、竹の子ニ逢ニ行候也。

(十月) 六日 雨、又晴。

十一字ヨリ父様、千よ滝さま、浅草え殿様御祈禱に大盤若経上に参られ候て、四字帰殿也。此夕景、宮原竹の来。七日西京え出立のよし申来り候。

*大盤若 (大般若)

(十月) 七日 晴。

此日、不快ニテ臥。

(十月) 八日 晴。

扇明亭来。

(十月) 九日 晴。

朝十字頃より花蹊、花山連テ銀座福田え会式ニ行。昼飯シテ、築地島原芝居の辺歩行シテ、沢邸通行ス。西洋料理亭に成候。此時、石山様、沢從三位、長丸、太助、弘居られ候也。三字頃、福田え移る。此日、元徳川氏ニ勤仕致され候成瀬尼来られ候。上州之人も居られ候て、此夜、巴女日蓮記浄瑠璃、外ニ大甲記も有、夜一宿。大風、又雨。

*浄瑠璃 (浄瑠璃) *大甲記 (太閤記)

(十月) 十日 雨。

八字頃、雨止、十一字頃より又雨、大風。十二字、飯後、花山連て帰殿候也。四字頃也。

(十月) 十一日

昼飯後、石山家行。此日、菊の客ニテ三条西二位様、興正寺様、沢正三位、從四位、西四辻、東園侍從、北条侍從、片岡侍從。夜十二字、退座。雨。

(十月) 十二日 雨。

朝、揮毫。二字頃より又石山家行。菊の客ニテ綾小路父子、伏原夫婦父子、三条西、冷泉、千種三人、脇坂。夜十二字、退坐。雨止。

(十月) 十三日 晴。

夢祝ニテ放業。巴女来、一宿。

(十月) 十四日 晴。

巴女、四字帰宅ス。此夕景、外務省使長谷川来。延療館魯国王子返応之節、席画頼来り候。承知ス。

*延療館 (延療館)

(十月) 十五日
(コノ日、記事ナシ)

(十月) 十六日 晴。

大職官御神事也。放業。渡辺楽之助来。

*大職官(大織冠)

(十月) 十七日 晴、夕景時雨。

終日揮毫。渡辺鉄治郎来。

(十月) 十八日 晴。

終日揮毫。夜一字頃、筵療館より使長谷川来、明十九日魯シヤ皇子ニ席画可致呉様申来り候。

*筵療館(延療館)

(十月) 十九日 晴。

朝十字頃、父様同行ニテ延療館へ行。皇子病中ニテ夜ニ入テヨリ席画ス。十二字頃、帰殿ス。

*延療館(延療館)

(十月) 二十日 晴。

終日揮毫。石山様え稽古ニ行。此二字頃、石山菊姫さま、すか女来られ候て、夜十字帰殿也。

(十月) 二十一日 晴。

終日揮毫。

(十月) 二十二日

終日揮毫。西京典方え三日切書状出ス。

(十月) 二十三日 雨。

終日揮毫。典より十月十九日出書状着。宮原よりも来。

(十月) 二十四日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 二十五日 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 二十六日 晴。

此朝、松浦黒川来。花蹊、重遠誘、十二字より人力車、柳橋辺、夫より舟行、蔵前八幡様
辺、羅雪谷誘ニ舟を止テ行候処、羅雪谷浜え行留主也。夫ヨリ舟行、向島繫舟、木房寺梅
若社前ニ吉野碑新立候故、見ル。夫ヨリ歩行、梅隣亭え行。上墨水第一楼上酒肴、席画。
此時、日西斜、又乗舟。黒川氏、シイノ木屋敷え帰られ候。跡は柳橋辺着、夫ヨリ人力車
ニテ帰り候。

*木房寺(木母寺) *シイノ木(椎ノ木) *跡(後)

(十月) 二十七日 晴。

沢家客来ニテ呼に來。三条様、徳大寺様、万里小路様、三条西様、綾小路様、石山様也。
席画花蹊、勝川院、楓湖、外ニ目賀多清楽合奏連十人斗来。十字頃、御退坐也。花蹊も即
帰り候。沢家あまり不都合の取扱ニテ花蹊大立腹也。
此日ヨリ渡辺先生相頼、皇漢学入学ス。則先生来られ候也。

(十月) 二十八日

石山家え稽古ニ行。此日、高橋善右衛門娘かね女、此人上州館林家来河内領分え行候テ吉
井倍道卜馴染ニ相成、右倍道添書持参シテ来、右かね女御奉公頼候故、承知ス。

(十月) 二十九日

此夜、渡辺先生来られ候也。

(十月) 三十日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月)

十一月朔日 晴。

花蹊夢祝ニテ巴女呼ニ遣シ候。夕景、来り候。此時、平戸黒川来。青木脩治郎来。此夜、
催宴。石山様、菊姫様、寿か女、渡辺鉄次郎来。夜一字、退座。青木脩治郎、巴女宿。

(十一月) 二日 晴亦雨。

花蹊面二種物出来ル。臥籠。三浦来。昼後、近藤静順、みつ女来ル。此時、巴女帰り候。
*種物(腫物)

(十一月) 三日

花蹊臥ス。種物益甚。

*種物(腫物)

(十一月) 四日

此日、井上市兵衛使来。此度大坂府知事より御用ニテ出東被致候二付、土産物持参ニテ来ル。

(十一月) 五日

此夕景、井上市兵衛来。久々ニテ面会。種々咄しテ、八字頃帰られ候。

(十一月) 六日 晴。

花蹊漸種物癒。此日、里小路様ヨリ御使来。木村氏也。当八日花蹊從朝廷ヨリ被召候故、書画筆持参之事、難有奉拝受候。

*種物(腫物) *里小路様(万里小路様) *朝廷(ヨリ(衍))

(十一月) 七日 風。

花蹊、終日こしらへ物ニテ大多忙中。此日、石山様ヨリ御誘ニテ良姫様、千代滝さま、きみ、招魂社、松葉楼え成らせられ候。夜明て御帰殿也。

*こしらへ物(拵へ物)

(十一月) 八日 晴、亦雨。

十二字、里小路様迄行、夫ヨリ御所え案内シテ来レラレ候。一字也。暫して雨、八十子、晴湖も上り候。二字頃ヨリ山里御庭へ行。此吹上之御庭、名に聞之候ヨリも結構々々ニテ、実に難有事はぬ方なし。所々御茶屋拝見いたし候中にも滝見の御茶屋ハ殊更類なき美景也。晴湖ハ御庭ニテスベリコケ大々泥マブレ、扱々気の毒の事也。夫ヨリ鉄の釣橋を渡り候。是は中々盛成物也。夫ヨリ内侍所拝シテ梅見の御茶屋え参り候。御上、皇后様出御の御沙汰ながら、御上ハ御用ニテ出御あらせられず候。皇后様成らせられ候て御目通り仰付られ、夫ヨリ御側ニテ書画数幅揮毫ス。皇后様ヨリ色々御六ツケ敷御好もあらせられ候へとも先々速ニ出来ス。此時、出仕宮内卿徳大寺様、宮内太輔万里小路様、三条西様、福波五位、薩州八田也。御当座もあらせられ候。新樹典侍さま、杜若内侍様も御めにかゝり候。御料理戴。退出のせつ、皇后様ヨリ結構なる唐硯、群鵝呉墨、御目録金千疋等拝領仰付られ候。夜十字也。雨未止。十一字、帰殿也。親さまはしめ皆々え今日の御様子委しく

咄し候処、大有難り涙をなかしまいらせ候。実に冥加至極、家のめん目不過之候。
*里小路様(万里小路様) *来(レ)(ママ)ラレ *いはぬ(いはむ) *スベリ(滑り)
*宮内太輔(宮内大輔) *退出のせつ(退出の節) *めん目(面目)

(十一月) 九日 晴。

杜若内侍様、万里小路様え御礼の文差出し候。此日、三条西様御使水野真濟来。十一日御客あらせられ候故、花蹊御頼みに相成候。此日、石山様え上ル。亦石山様、松葉楼え成らせられ候て私御誘ニテ、夕景より父さまト同道ニテ松葉楼え行、十一字頃帰殿いたし候。此朝、麴町五丁目片岡宗兵衛方ニ浪花井上市兵衛旅宿ニテ、父さま、私、行候也。

(十一月) 十日 晴、風。

午後より三条西様え上り候。御客三条様、徳大寺様、中山様、九条様、沢、土方、綾小路、二位様、外ニ官員之人三人、晴湖も上り候て席上書画ス。晴湖早々帰り候。夜十一字頃、御客様御帰り也。私、綾小路様と同道、車ニテ帰殿候也。

(十一月) 十一日

終日宮本ヨリ頼みの画認ル。此日、石山様え稽古に行。

(十一月) 十二日

終日揮毫ス。

(十一月) 十三日

終日揮毫ス。石山様え稽古ニ行。此日、綾小路さまヨリ花蹊呼に來、参殿ス。画御頼みに相成候。

(十一月) 十四日 晴。

昼後ヨリさだむる子納会ニテ平松さまと御約束いたし候故、石山様迄行候処、石山様も御同行の御つもりニテ、平松さま御待合の処、とんと御出なく、四字比迄に御出なく故、花帰殿ス。

(十一月) 十四日 晴。(日付重複)

朝ヨリ綾小路さまえ御襖認ニ行、終日画。

(十一月) 十五日 晴。

綾小路家え行、終日画。

(十一月) 十六日 晴。

綾小路家へ行、終日画。此夜ヨリ雪積。

(十一月) 十七日

終日の雪六寸斗積。朝、綾小路家へ行候処、寒気つよく候処、此日ハ休息致す様仰せられ候故、帰殿ス。此時、綾小路正二位様成せられ候。薄茶上ル。此日、画の御入門遊し、則御目録等下され候。実にく珍らしき事也。八十一の御老人さまの御弟子は古来稀也事也。

(十一月) 十八日 晴。

綾小路家へ行、揮毫ス。

(十一月) 十九日 晴。

同断。

(十一月) 二十日 晴。

此日ヨリ砂子ニカ、ル。

(十一月) 二十一日 晴。

此日早ク落製いたし候。

(十一月) 二十二日 晴。

終日井上より頼みの画認ル。此日昼後より父さま、千よさま、花蹊、山本同道ニテ調物ニ行、日暮帰殿也。此(日)、水野真澄来。

(十一月) 二十三日 晴。

終日揮毫。

(十一月) 二十四日 晴。

終日揮毫。蜂屋丹鶴来。琉球人ヨリ頼みの巻物持参。画ヲ頼み候。

(十一月) 二十五日 晴。

此日四字頃ヨリ遊明楼え大坂府知事行レ候ニ付、井上より花蹊頼みに来り候。四字頃、遊明楼へ行、夫ヨリ八百善へ行。大坂府知事渡辺昇、宇和島公、大倉太夫井上薫、井上市兵衛、外二今一人、妓婦十五人也。席書画、和歌行れ、十一字頃帰殿候也。此日、高林二峰来。

*大倉太夫井上薫(大蔵大輔井上馨)

(十一月) 二十六日 晴。

終日揮毫ス。夜、麴町井上旅宿へ行、面談ス。此時、日新文二十八子、晴湖参朝之事出候へとも、花蹊斗はぶき候事大に不承知立腹之咄し、始メテ新文を見て驚候。

*日新文(日新聞) *新文(新聞)

(十一月) 二十七日 晴。

終日揮毫ス。

(十一月) 二十八日 晴。

此朝、渡辺先生来られ候。講訳聞。終日揮毫ス。漸井上氏ヨリの画二十枚落製ス。

*講訳(講釈)

(十一月) 二十九日 雨。

此日、西京典え文出ス。

(十二月)

十二月朔日 晴。

終日多忙ニ日暮ス。朝七ツ起、かちんつき、五ツ時済。夫ヨリおすゝ也。日暮、相済候。

*すゝ(煤)

(十二月) 二日 晴。

終日大多忙。此夜、徐夜也。此日、御改曆、大陽曆相成。

*徐夜(除夜) *大陽曆(太陽曆)